

めぶきニューヨークレポート

MEBUKI NEW YORK REPORT

2022年11月号

- ◇ 【調査レポート】米国医療事情の企業への影響について・・・・・・・・・・ P.1
- ◇ 【NYライフ】ニューハンプシャー州コグ鉄道・・・・・・・・・・ P.3
- ◇ 【ニュース一覧】・・・・・・・・・・ P.4

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所
712 Fifth Avenue 8th FL
TEL：+1-347-686-8420
E-mail：newyork@joyobank.co.jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願い致します。

発行元：常陽銀行市場国際部



常陽銀行



足利銀行

MEBUKI
めぶきフィナンシャルグループ

調査レポート～米国医療事情の企業への影響について～

米国の医療費は一般的に高額と言われていますが、米国独特の医療事情や慣習がその理由となっています。更に足元のインフレも影響し、医療費と共に医療保険料の上昇も招いています。今回は米国の医療事情にスポットを当てて、その企業への影響についてレポートいたします。

1. 高額な医療費

米国は医療費が高額なことで有名です。一人当たり年間医療費は日本の2倍以上の水準です（図1）。病院での治療費は概ね以下の通りとなっています。

- 【米国の治療費の例（無保険の場合）】
- 心臓バイパス手術 3,800万円（最大）
 - 帝王切開 750万円（最大）
 - 足首骨折 300万円
 - アレルギー注射 30万円（年間）
- 【出所：International Citizens Insurance】

医療が高額となる要因としては以下が挙げられます。

- ①独特の医療システム（専門性が高い）
 - ✓ 医師の専門性が高く、レントゲンは別な病院で行うなど診断次第では複数の医師の治療が必要となり、その分医療費が高額になる傾向があります。
 - ②病院（医師）が金額を自由に決定
 - ✓ 米国では任意の医療保険（次項で後述）加入が前提とされており、病院が医療費を高額に設定する遠因となっています。
- 最近では、医療費とともに「医療保険料」も上昇しています（図2）。日本の一般家庭の保険料負担額40～50万円と比べても高額なことが分かります。

※レポート中の円ベース表記は1ドル150円で試算

2. 米国の医療保険の概要

- ✓ 米国では公的医療保険制度が二つありますが、対象は高齢者や低所得者等に限定されています（表1）。
- ✓ 公的保険が根付いていない理由は、戦後の医療保険黎明期に職場が提供する民間の医療保険が主体であったことに起因します。国民の多数派である中間層が民間保険に加入したため、公的保険導入による保険の質低下を懸念したことが要因とされています。
- ✓ その後、格差拡大と共に国民の20%が無保険者となり社会問題化したため、2010年に前オバマ大統領主導で医療制度改革法（通称オバマケア）がスタートしました。
- ✓ オバマケアでは、従業員向け民間医療保険の提供を企業に義務付けることで、国民皆保険を目指しました。
- ✓ 民間医療保険は、企業が保障内容および医療費の自己負担額について自由に設計できます（表2）。また、保険会社ごとに「ネットワーク★¹」と呼ばれる医師、病院などの医療機関リストがあることなどの特徴があります（図3）。

図1 G7各国の一人当たり年間医療費の比較（2019年）

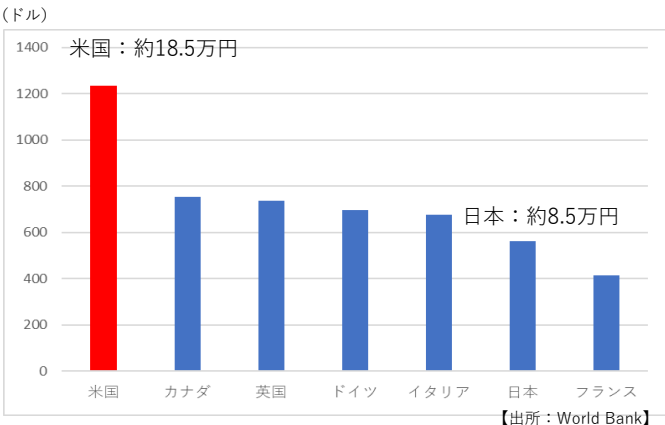


図2 米国における年間医療費、保険料の推移

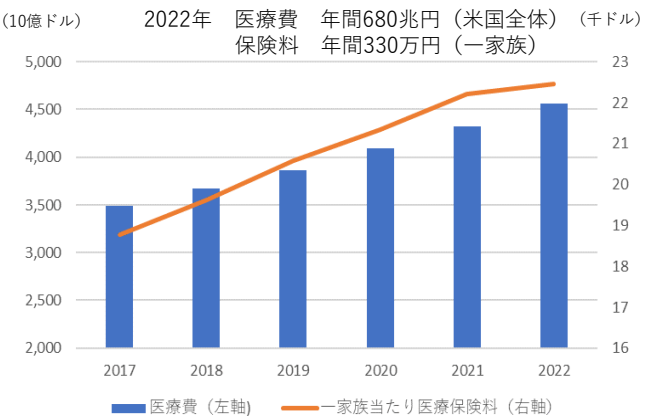


表1 米国の医療保険の加入状況（2022年）

	種類	対象者	配分
公的	メディケア	65歳以上の高齢者・障害者	18%
	メディケイド	低所得者（4人世帯年収約4百万円以下）	15%
民間	保険会社で様々な選択肢あり		56%
	その他無保険者等		11%

【出所：Keyser family Foundation】

表2 医療保険における自己負担の仕組み

名称	内容	例
自己負担金（Co-Pay）	医療サービスを受診のための金額	25ドル
免責金額（Deductible）	自己負担する必要がある金額	500ドル
自己負担割合（Co-Insurance）	免責金額を超えた部分の支払割合	20%

例：医療費が2,000ドルの場合かかる医療費は25 + 500 + (2,000 - 500) × 20% = 825ドル
注：自己負担額が小さいほど保険料は高額となります。

図3 医療ネットワークの検索画面



【出所：Aetna WebSite】

★¹ネットワーク「内」の病院での受診は保険会社のカバーが大きくメリットあり。「外」の場合でも受診は出来るが自己負担が増える。
→ 保険会社のHPからログインし、居住地の郵便番号や、医師名、どの科目を診察するかを入力して、ネットワーク内かどうかを検索します

3. 企業への影響

【従業員医療保険料の企業負担について】

①企業による従業員向け医療保険付与
米国では企業が医療保険を提供することが通例です。従業員が50名以上の企業は、福利厚生の一環として提供が義務付けられています。従業員数50名以下の企業でも半数以上が従業員向けに医療保険を用意しています（表3）。

②従業員家族の医療保険も企業が提供
企業が提供する医療保険では、従業員だけでなく、その家族（扶養含む）も対象とするケースがほとんどです。JETROのデータでは、8割以上の企業が従業員家族に対しても医療保険を提供しています。

③企業の保険料負担
保険料に関しては、単身者に対しては約50%の企業が、家族に対しても25%の企業が100%負担しているとの調査結果があります（図4）。
また、医療保険料が上昇するなか企業の負担額も年々増えており、米国進出企業にとって医療保険料は、人件費の一部として捉える必要があります（図5）。

【医療保険に対して考えるべきポイント】

米国の雇用市場が依然売り手優位のなか、雇用する側の企業は以下の点を考える必要があります。

- ✓ 求職者にとっては、福利厚生の面で優良な保険プランを提供できるかどうか、企業を選択する重要なポイントとなる。
- ✓ 州^{＊2}によって保険商品が異なるケースもあるため、進出の際には事前調査が必須となる。
^{＊2}南部、中西部の共和党の強い12州は公的保険未導入
- ✓ 最近では、企業が従業員の保険費用を負担する余裕がなくなり、止む無く解雇に踏み切るケースも出ています。コストと従業員満足度のバランスを考えるとともに、保険料の中長期的な見通しも踏まえ、最適なプランを考える必要があります。

表3 従業員数別医療保険の付与率（2018年調査）

在米日系企業				米国企業	
従業員数	医療保険付与率			従業員数	医療保険付与率
	医療	歯科	眼科		
1～10	85%	76%	47%	3～9	47%
11～49	98%	94%	71%	10～24	63%
				25～49	77%
50～99	98%	95%	78%	50～199	93%
100以上	98%	97%	88%	200以上	99%

【出所：JETRO】

図4 従業員の家族の属性別医療保険料の企業負担率（2019年調査）

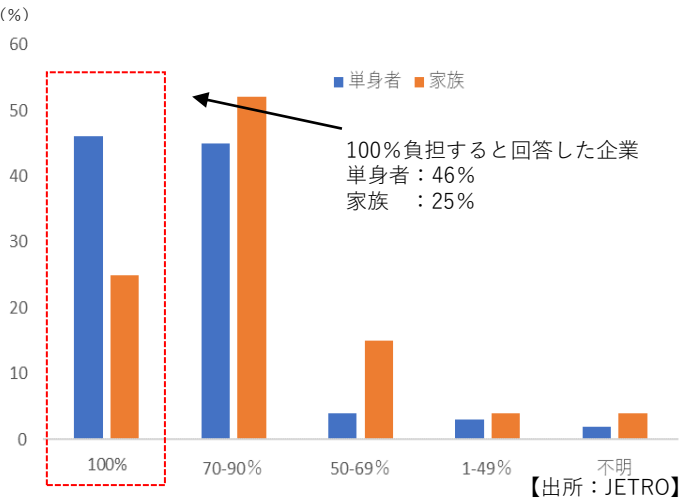
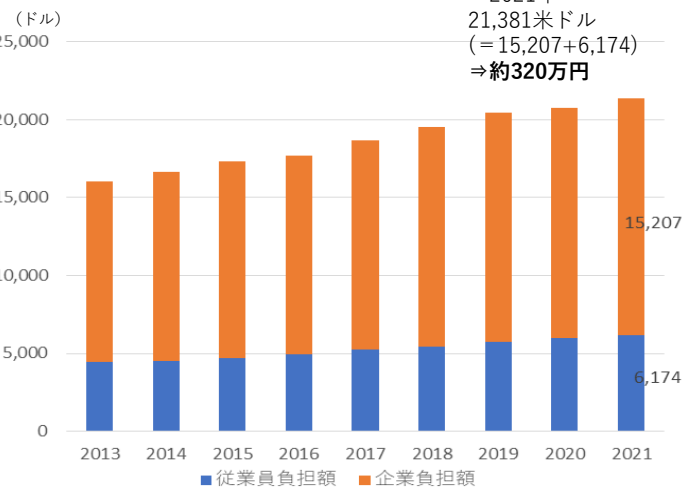


図5 米国の一世帯当たり年間医療保険料（企業負担額・従業員負担額）



4. おわりに

- ✓ 健康面で安心した生活を送るうえで、医療事情の把握と医療保険制度の理解は必須です。米国に限らず、海外進出の際は、当地で業務に従事する従業員の健康管理、さらには優秀な人材を確保する観点からも、福利厚生の充実は欠かせない要素となります。そのためにも事前の十分な調査と検討が求められます。
- ✓ 当事務所では当地の保険取次業者やコンサルタントのご紹介なども可能です。引き続きお客様の海外進出のお役に立てる情報を配信してまいります。是非お気軽にご相談ください。

（お問い合わせ先：newyork@joyobank.co.jp）

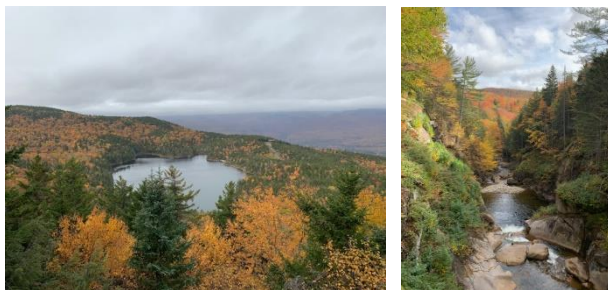
【ニューヨーク駐在員事務所 吉田 圭佑】

NYライフ ～ニューハンプシャー州コグ鉄道～

ニューヨークは夏の暑さが終わり、すっかり秋らしい季節になりました。これからの季節に楽しみになるのは美しい紅葉です。ニューヨークから少し遠出をすると、マンハッタンとはまた違う広大な紅葉の景色に出会うことができます。

10月の連休、以前から気になっていたニューハンプシャー州へ紅葉旅行へ行ってきました。ニューヨークより早くピークを迎えた山々は、赤、黄、緑の混じった油絵のような景色が広がり、その雄大な景色に圧倒されました。そこで体験した、世界有数の登山鉄道をご紹介します。

【ニューハンプシャーの紅葉の様子】



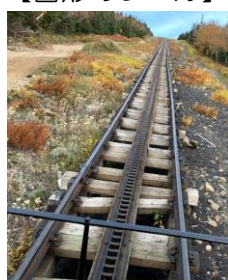
ワシントン山コグ鉄道 (The Mount Washington Cog Railway) は、マンハッタンから車で約7時間、ニューハンプシャー州北部に広がるホワイト山地にあるワシントン山山頂へ向かう登山鉄道です。「コグ」とは「歯車」のことで、日本ではラック式鉄道と言われており、二本のレールの中央に歯形のレールを敷き、車両の床下の歯車とかみ合わせることで急勾配を登り下りする鉄道システムです。「月へ行く鉄道(The railway to the moon)」と呼ばれるこのコグ鉄道は、1868年に開業した世界最古の登山鉄道で、更に勾配もスイスのピラトゥス鉄道に次ぎ世界で二番目に急だということです。

【駅から山頂へ繋がる線路】

【蒸気を上げる機関車】

【歯形のレール】

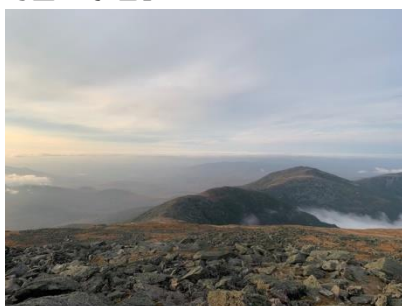
【車内から見た機関車】



綺麗に色づいた木々に囲まれた駅に到着すると、多くの人が乗車を待っていました。蒸気を上げる機関車と木製の赤い車両、乗車する機関士の姿は、テーマパークのようです。車両に乗り込み、約1時間かけてゆっくりと1916mの山頂を目指します。車両の後ろに蒸気機関車が連結され、車両を押し上げて急勾配を登る仕組みです。振り向くと大量の蒸気が上がっており、蒸気機関車の音と共に力強い振動が伝わってきます。上るにつれて周囲の木々が低くなり、周囲の山の山頂とそれらにかかる雲が同じ目線で見えてくるようになりました。更に上り山頂に近づくと、木はまったくなくなり石に覆われた荒涼とした景色になってきます。

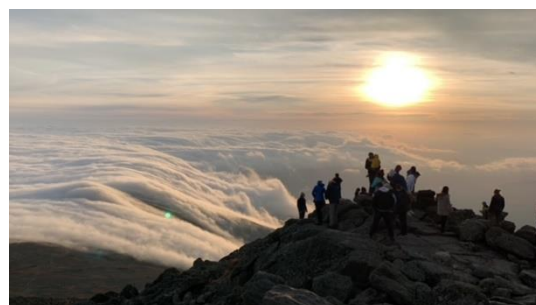
【変化していく周囲の景色】

【山頂で停車中】



夕方の便だったので夕日が見えたらいいなと期待をしていたのですが、山頂に到着してみると周囲には雲海が広がり、そこに沈んでいく夕日は想像以上の絶景でした。ただし、完全に日が沈んでから下山することになるので、真っ暗な中、機関士がブレーキを操作しながら急斜面を下る帰路はかなりスリルがあります。帰りは行き半分の時間で駅に到着しました。登山鉄道とここでしか見るのでできない絶景は、忘れるのでできない貴重な経験になりました。山頂まで車で上ることができる道路 (Mt. Washington Auto Road) も整備されているので、運転が好きな方にはそちらもお勧めです。

【山頂の景色】



【写真は全て筆者撮影】 【ニューヨーク駐在員事務所 菱沼 いずみ】

News 一覧

<政治>

- ・バイデン大統領、エネルギー企業に値下げ要請「消費者に還元すべき」(9/22)
- ・バイデン大統領、高インフレで企業に手数料廃止や値下げ要請(9/26)
- ・ニューヨーク州、2035年までにガソリン車販売禁止へ、カリフォルニア州規制を採用方針(9/29)
- ・バイデン大統領、OPECプラスの大幅減産決定に「失望」、代替策を模索(10/6)
- ・バイデン大統領、大麻の単純所持を恩赦、大麻の分類変更も着手(10/6)
- ・米中間選挙、移民・犯罪対策で共和支持が優勢-ロイター・イプソス調査(10/7)
- ・バイデン大統領、米EUデータ移転の新枠組導入へ大統領令(10/7)
- ・NY市長が非常事態宣言、米南部からの移民移送巡り(10/7)
- ・米政権、半導体製造装置巡る対中輸出規制の大幅拡大を発表(10/8)
- ・バイデン大統領、OPECプラス大幅減産受けサウジとの関係見直しへ(10/11)
- ・ホワイトハウス、国家安全保障戦略を発表、中ロに照準、同盟国との協力強調(10/12)
- ・バイデン大統領、米物価「高すぎる」、インフレとの戦いが最優先事項(10/13)
- ・米政府、コロナ緊急事態宣言を90日延長(10/13)
- ・バイデン大統領、生物兵器防衛強化へ覚書に署名、新型コロナ流行踏まえ(10/18)
- ・バイデン大統領、石油備蓄追加放出へ、中間選挙控えガソリン高騰対策(10/19)

<金融政策>

- ・ブレイナードFRB副議長、尚早な利下げに警告、高インフレ受け(9/30)
- ・クックFRB理事、インフレは高水準でFRBの先制アプローチ「適切」、利上げ継続方針ぶれず(10/6)
- ・ニューヨーク連銀ウィリアムズ総裁、インフレ対応に一段の利上げ必要(10/7)
- ・ブレイナードFRB理事、利上げ効果発揮までになお数ヵ月か、道筋やペースはデータ次第(10/10)
- ・クリーブランド連銀メスター総裁、FRB、引き締め継続必要、来年の利下げ想定せず(10/10)
- ・ボウマンFRB理事、インフレ鈍化しなければ、大幅利上げ継続必要(10/12)
- ・サンフランシスコ連銀ディリー総裁、米金利4.5-5%に上昇する「公算大」(10/14)
- ・クックFRB理事、インフレ低下まで引き締め継続の必要(10/14)
- ・カンザスシティジョージ総裁、FRB、慎重な利上げ必要(10/14)
- ・セントルイス連銀ブラード総裁、ドル高、FRB利上げ停止なら緩和へ(10/15)
- ・ミネアポリス連銀カシュカリ総裁、FRB、4.75%以上への利上げも(10/18)

<経済指標>

- ・中古住宅販売戸数：8月は480万件で7ヵ月連続減少、減少率は鈍化(予想470万件)(9/21)
- ・新築住宅販売戸数：8月は28.8%増の68.5万件、予想上回る(予想50.0万件)(9/27)
- ・消費者景気信頼感指数：9月は108.0と前月から上昇し、2ヵ月連続の上昇(予想104.5)(9/27)
- ・国内総生産(GDP)：4-6月確定値は前期比年率▲0.6%で改定値と同じ(9/29)
- ・米ミシガン大学消費者信頼感指数：9月(確報値)は58.6と、前月の58.2から上昇(9/30)
- ・ISM製造業総合景況指数：9月は50.9で2年4ヶ月ぶりの低水準(予想52.3)(10/3)
- ・貿易収支：8月は▲674億ドルと前月▲706億ドルから赤字減、2021年5月以来の低水準(10/5)
- ・非農業部門雇用者数：9月は前月比+26.3万人、市場予想を下回る(予想+27.5万人)(10/7)
- ・失業率：9月は3.5%に低下(予想3.7%)(10/7)
- ・CPI：9月は前年同月比+8.2%で伸び鈍化(10/13)
- ・小売売上高：9月は前月横ばい(予想+0.2%)(10/14)
- ・住宅着工件数：9月は前月比▲8.1%の143.9万戸(予想147.5万戸)(10/19)

(出所：各種新聞等、2022年9月下旬～10月下旬のニュースを抜粋)